

# 特集 新たに指定された貴重資料

## おさない 「小山内家文書」

附属図書館長 長谷川 成一

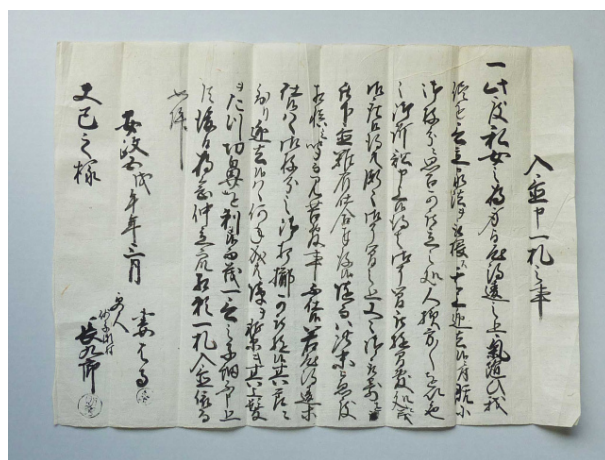


このたび、新たに貴重資料に指定された「小山内家文書」を紹介します。資料の総数は1,530点に及び、個々の資料については、附属図書館ホームページにアップしている「小山内家文書目録」を参照して下さい。

本資料は、豊田村（現弘前市大字豊田）村長を務め、弘前市議会議員であった小山内淳四郎氏（1904-63）から、本学が昭和37年（1962）11月15日に寄贈を受けたものです。受入れの際に、附属図書館において若干の整理を行いました。本格的な調査と分類・整理はなされないまま、新書庫5層に保管されていました。この間、一部の資料が、『新編弘前市史 資料編3（近世編2）』（平成12年刊）に掲載されることはありましたが、目録がなく公開できる状況になかったため、大部分の資料は未公開のままでした。そのようななかで、当文書の整理は、長谷川の指導のもと、十数年をかけて人文学部日本史研究室のゼミ生、大学院生で実施し、資料目録の作成にいたりしました。

周知のように津軽地方では、弘前市立弘前図書館の津軽家文書をはじめ藩政資料が多く継承・保存されてきました。反面、農村資料の残存は稀少であり、本資料は津軽地方の近世から近代にかけての地方（じかた）文書（農村資料の総称）なことから、その意味でも貴重な資料群です。小山内家は、藩政時代に小比内村の庄屋を務め、堀越組の小比内村・高田村・取上村等の土地台帳や村政の実務に関する史資料を同家で保管してきました。したがって、弘前城下近郊農村のあり方を研究する上で貴重な資料群といえましょう。目を引くのは、明和期（1760年代）から残存する、土地の移動に関する大量の証書類であって、それらは、おおむね小比内村・外崎村等の借銀銭による小規模な土地の売買に関わるものです。

藩政期の資料中で、資料番号345号の安政5年（1858）3月「はる詫状」は、特筆すべき内容であり、女性史の研究に大いに資する文書です。写真版を掲載しましたのでご覧下さい。



「はる詫状」安政5年（1858）3月

近代の資料は、中津軽郡の郡役所資料と戸長を務めた小山内家の戸長役場関係資料が多くを占め、近代の土地台帳や大小区制下における基本資料類で構成されています。そのほか、地租・地稅関係資料も豊富であり、明治10年（1877）から同22年に至る大量の地券は、小山内家の土地集積の状況を窺うことができる好資料です。小山内家は小比内村において農業を家業としつつも土地集積をはかり、地主として村内外の人々と小作関係を結びました。同家の土地集積と小作関係に関する史資料は膨大であり、従来の研究史では空白の分野であったことから、当該資料を用いての研究の深化が望まれます。

（はせがわ せいいち）